

性の多様性及び性的少数者に関する教職員を対象とした啓発活動

ー これからの学校教育を見据えてー

教育学研究科 教育実践創成専攻 教育実践開発コース 教師力育成分野 鈴木 隆太郎

1. はじめに

近年、性の在り方について見直されてきている。2003年に「性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律」が施行されたことを始めとして、性的少数者当事者の人権保障や法整備の必要性が高まっていた。2012年に文部科学省（以下、文科省）から「自殺総合大綱」が出され、性同一性障害や性的少数者などの当事者（以下、当事者）のいじめや自殺念慮性の高さやそれに伴う学校現場における対応などについて提言が行われた。2015年には文科省から「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施」が出され、2017年には「いじめ防止対策推進法」が改正され当事者に対する対応などが追記された。上述の通り、文科省から当事者に対する学校現場での対応に関する提言や法律は多く存在し、学校現場において当事者に対する対応の必要性は年々増加し、現代の学校現場において対応すべき問題の一つとして挙げられる。

本稿では、性の多様性などに関する用語や認知度が学校現場においてどの程度なのかを調査し、学校現場の実態を把握し、実態を基に啓発資料を作成し、学校現場にて配布することで啓発活動とした。啓発資料配布後、事後アンケートを実施し、啓発資料配布前後の意識変容や知識増進などを比較、分析した。

2. 研究の目的および方法

2-1. 研究の目的

本研究の目的は、本研究テーマに関する認知度や意識調査からその結果に基づき作成した啓発資料を配布し、事後アンケートを実施し、以下のことについて検証することである。

- ・ 研究校の教職員を対象に、現状の小学校教職員の性の多様性及び性的少数者に関する認知度及び対応経験などの実態についてアンケートより明らかにすること。
- ・ 啓発活動を行い、研究校の教職員の性の多様性や性的少数者などに対する意識向上および知識増進につながるかを検証すること。

2-2. 研究の方法

(1) 研究のながれ

本研究は、研究校における性の多様性および性的少数者に関する認知度や意識を調査し、その調査結果を基に啓発資料を作成・配布し、この啓発資料によって性的少数者などに関する用語等の認知度や性的少数者当事者への意識などの促進や変容があったかを事後アンケートで調査した。以上を研究のながれとした。また、調査にはアンケートを用いた。

(2) アンケートおよび啓発資料配布に関する実施計画

全2回のアンケートおよび啓発資料の配布については以下のとおり行った。

- ・ 事前アンケート調査実施
- ・ 啓発資料の作成及び配布
- ・ 事後アンケート調査実施

(3) 研究校について

本研究における研究校は山梨県内の公立小学校1校であり、児童数は約500名、全26学級、うち特別支援学級が3学級の大規模校である。研究校の特徴として、学級担任の約65%が20代から30代前半で、大半の教職員が初任校もしくは2校目の勤務であり、若手教員の多い学校となっている。

(4) 本研究テーマに関する研究校における第1回（事前）アンケートについて

本研究に関するテーマについて、研究校において教員の認知度はどの程度なのか、当事者などに対する意識などはどのようなものなのかを把握するためにアンケートを行った。アンケートは、マイクロソフト社のフォームズを用い、オンライン上で行った。調査対象は研究校の県費負担の教職員39名とした。本研究のプライバシーやセンシティブな面が回答結果に影響しないよう、回答は匿名で募った。

①事前アンケートの概要は以下のとおりである。

- ・第1問 所属学年について（選択式）
- ・第2問 LGBTという言葉についての認知度（選択式）
- ・第3問 インターセックスというセクシャリティについて（選択式）
- ・第4問 性同一性障害について（選択式）
- ・第5問 自身の性的少数者などの児童の対応経験について（選択式）
- ・第6問 実際の対応事例など（記述式）
- ・第7問 実際の対応の際に生じた問題など（記述式）
- ・第8問 当該児童に関わるにあたっての不安や疑問など（記述式）
- ・第9問 あらかじめ知っておきたいことなど（記述式）

※第5問で「いた」を選択した場合第6問、第7問を回答、

「いない」「わからない」を選択した場合第8問、第9問を回答する。

②事前アンケートの各設問の選択肢は以下のとおりである。なお、各設問の設問内容は①にて概要を示したので省略する。第6問から第9問は記述回答の設問のため省略する。

- ・第1問 所属学年について（選択式）
選択肢 「第1学年から第6学年の各学年、特別支援学級、その他」の8つ。
- ・第2問 LGBTという言葉についての認知度（選択式）
選択肢 1. LGBTという言葉は聞いたことがない。
2. LGBTという言葉だけ聞いたことがある。
3. 一部の名前は言えるが4文字全てはわからない。
4. 名前は全て言えるが説明はあやしい。
5. 全て知っており説明もできる。
- ・第3問 インターセックスというセクシャリティについて（選択式）
選択肢 1. 自身の身体的性について何らかの問題を抱えており、男女どちらかはっきりしない人
2. 自身の性自認について、男女どちらかはっきりせず揺れ動いている人
3. 周りの人に対して、どのようなセクシャリティも受け入れるという考えを持っている人
- ・第4問 性同一性障害について（選択式）
選択肢 1. 自身の性自認について、男性、女性どちらにも揺れ動き、時と場合によって自身が自認する性別が変わる人。なお他のセクシャリティ（身体的性、社会的性、性的指向）などは条件には含まない。
2. 自身の社会的性について、周りの者から認識される性別とは異なる性別を持続的に表現しようとする人。
3. 生物学的には性別が明らかだが、心理的には他の性別であると持続的な確信を持ち、自身を身体的及び社会的にほかの性別に適合させようとする意志を持っている人。

- ・第5問 自身の性的少数者などの児童の対応経験について（選択式）

選択肢 「いた、いない、わからない」の3つ。

「いた」と回答した者は第6問、第7問を回答、

「いない」「わからない」と回答した者は第8問、第9問を回答する。

- ・第6問から第9問は省略。

(5)啓発資料の作成について

啓発資料は事前アンケートの回答結果より研究校の教職員の性の多様性及び性的少数者に関する認知度や対応経験の実態に基づいて作成した。

(6)本研究テーマに関する研究校における第2回（事後）アンケートについて

事後アンケートについて、実施場所、実施方法、実施対象、匿名回答などは事前調査と同様のため説明は省略する。事後アンケートは啓発資料を読んで知識や意識の変容が起きたかを明らかにすることが目的であるため、事後アンケートの回答回収開始を啓発資料配布開始日の1週間後とした。

- ①事後アンケートの概要は以下のとおりである。

なお、第1問から第4問の選択式問題は事前アンケートと同様のため省略する。ただし第3問、第4問の選択式問題については選択肢の順序を入れ替えて、回答を募った。

- ・第1問から第4問 省略
- ・第5問 啓発資料についての意見・感想など（記述式）
- ・第6問 事前アンケート時と事後アンケート時で変わったこと（知識や意識など）（記述式）
- ・第7問 啓発資料の必要性について（選択式）
選択肢は「全く役に立たなかった」から「とても役に立った」の5件法とした。
- ・第8問 自由記述欄（記述式）、任意回答

3. 事前・事後アンケートの結果および啓発資料

3-1. 事前アンケートの結果

事前アンケートの各設問の回答結果を以下に示す。なお、第2問から第5問の選択式の回答結果は表および図にて示す。

- ・第1問 所属学年について（選択式）

回答結果は第1学年から第5学年が各学年4人で合計20人、第6学年が3人、特別支援学級所属が3人で学級担任の合計が26人、管理職や養護教諭、栄養教諭、事務などの学級担任以外が6人、全体で32人の回答が得られた。

- ・第2問 LGBTという言葉についての認知度（選択式）

各選択肢の回答人数	
5	12
4	10
3	7
2	3
1	0

表1 事前アンケート第2問回答結果

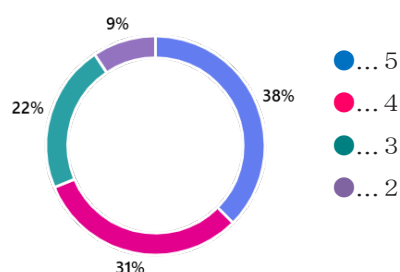


図1 事前アンケート第2問各選択肢の回答人数の割合

・第3問 インターセックスというセクシャリティについて（選択式）

各選択肢の回答人数	
1	5
2	24
3	3

正答は選択肢1。

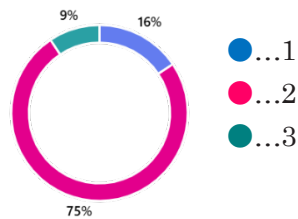


表2 事前アンケート第3問回答結果

図2 事前アンケート第3問回答人数の割合

・第4問 性同一性障害について（選択式）

各選択肢の回答人数	
1	9
2	9
3	14

正答は選択肢3。

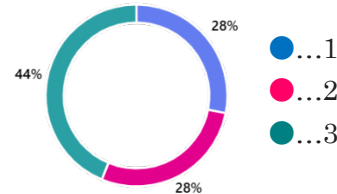


表3 事前アンケート第4問回答結果

図3 事前アンケート第4問回答人数の割合

・第5問 自身の性的少数者などの児童の対応経験について（選択式）

各選択肢の回答人数	
いた	9
いない	11
わからない	12

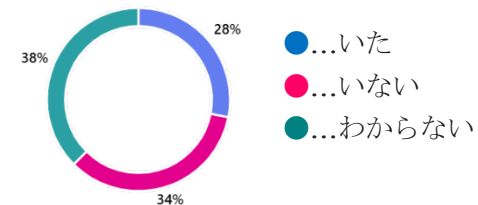


表4 事前アンケート第5問回答結果

図4 事前アンケート第5問回答人数の割合

・第6問 実際の対応事例など（記述式）（第5問で「いた」と回答した者が回答対象。）

- ・学校全体で受け入れる体制を示しフォローした。
- ・宿泊学習および入浴時の配慮した
- ・〇〇らしさという言葉の使用を控えた
- ・誰であっても接し方は同じという態度
- ・保護者との確認および教員間の情報共有の許可
- ・周りにどこまで伝えるか
- ・女の子友達が多く女の子遊びしかしない男子がいた
- ・性別関係なく個を尊重した。
- ・女子で服装は普通だが、男子のように振る舞っていた。トイレなどは特別問題なかった

・第7問 実際の対応の際に生じた問題など（記述式）（第5問で「いた」と回答した者が回答対象。）

- ・クラス・学年の子どもたちに話をした後に生じる問題が不安だった。
- ・少しいじめのようなことがあった。（からかわれるなど）
- ・子どもたちが個性として受け入れていたので、特に問題はなかった。
- ・女の子としか付き合わないが、本人にその意識が感じられなかったこと。

・第8問 当該児童に関わるにあたっての不安や疑問など（記述式）（第5問で「いない」「わからない」と回答した者が回答対象。）近似した意味合いの回答は1つにまとめて提示する。

- ・日常的に男女という言葉を使っているが、使っていないかどうか。
- ・当該児童、周囲の児童への配慮、指導。
- ・当該児童がSOSを発した後の対応では遅い。事前に知ってあげられる方法があるのか。
- ・トイレの問題、宿泊学習の時のお風呂の問題。
- ・本人、保護者、学校関係者（大人・子供を含む）との折り合いのつけ方。
- ・性の多様性の対応の準備（手続き、合理的配慮の具体、環境など）が整っていないこと。
- ・当該児童への接し方。知らずのうちに傷つけてしまっていないか。打ち明けてきた場合の対応。
- ・いじめに発展しないための配慮。

- ・第9問 あらかじめ知っておきたいことなど（記述式）（第5問で「いない」「わからない」と回答した者が回答対象。）近似した意味合いの回答は1つにまとめて提示する。
- ・発言で気を付けるべき点
- ・トイレや更衣室の利用、健康診断の対応について
- ・先行事例について
- ・当事者がどのようなことで不安や嫌な気持ちになるのか
- ・連携可能な外部機関
- ・幼稚園保育園時代の対応の仕方について
- ・保護者がどう思っているのか、それに対し教師はどう対応すべきか

3-2. 啓発資料

啓発資料はパワーポイントをPDF化したものを電子データで配布した。全12ページの構成で、各ページで最も伝えたいことを最下段に青文字で記した。実際に配布した資料は図1のとおりである。啓発資料の内容の概要は以下のとおりである。

- ・性別を構成する要素（身体的性、ジェンダー、性的指向、性自認等）
- ・性的少数者とLGBT（LGBTの各文字が表す言葉および言葉の定義）
- ・LGBT以外の様々なセクシャリティ（インターセックス等）
- ・性同一性障害について（法的定義、WHO定義、当事者の割合等）
- ・性的少数者の自殺やいじめ（当事者の自殺念慮性、いじめ経験）
- ・事前アンケートの結果の抜粋（当事者の対応経験、実際の対応事例）
- ・性的少数者の受容と尊重（当事者への支援、アライ※1）

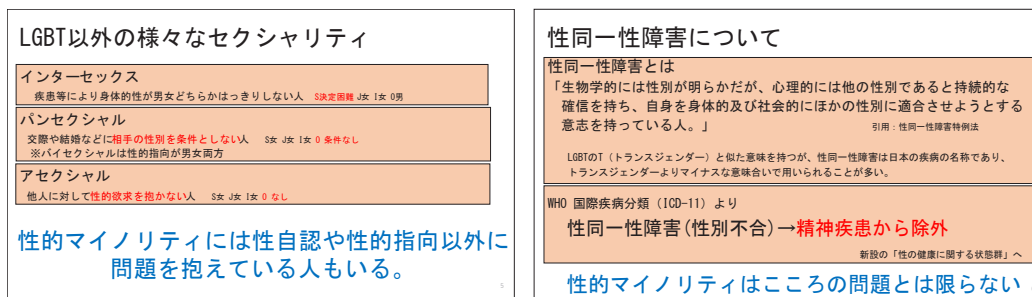


図5 実際に配布した啓発資料

※1 アライ：性的少数者に対し、支援や受容の意思を持つ人のこと。（引用 日本LGBT協会）

3-3. 事後アンケートの結果

事後アンケートの各設問の回答結果を以下に示す。第8問の自由記述欄は省略する。

- ・第1問 所属学年について（選択式）

回答結果は第1学年・4学年・5学年・特別支援が各4人、第2学年・6学年が3人、第3学年が2人、管理職・養護教諭・栄養教諭・事務が7人、全体で31人の回答が得られた。

- ・第2問 LGBTという言葉についての認知度（選択式）

各選択肢の回答人数	
5	9
4	18
3	4
2	0
1	0

表5 事後アンケート第2問回答結果

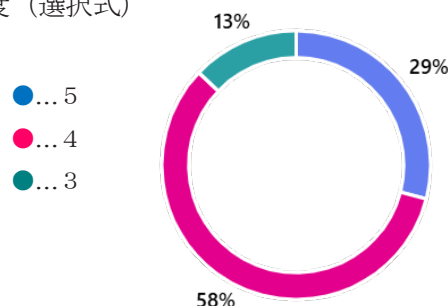


図6 事後アンケート第2問回答人数の割合

・第3問 インターセックスというセクシャリティについて（選択式）

正答は選択肢3。

各選択肢の回答人数	
1	10
2	2
3	19

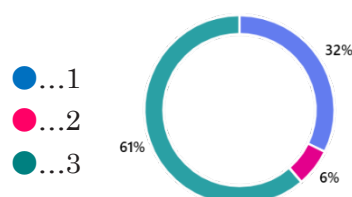


表6 事後アンケート第3問回答結果

図7 事後アンケート第3問回答人数の割合

・第4問 性同一性障害について（選択式）

正答は選択肢2。

各選択肢の回答人数	
1	4
2	23
3	4

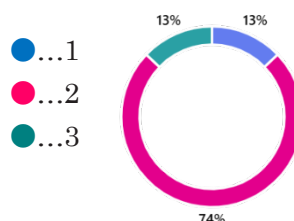


表7 事後アンケート第4問回答結果

図8 事後アンケート第4問回答人数の割合

・第5問 配布した啓発資料についての意見や感想など（記述式）

- ・資料を読んで本人との丁寧な話し合いが必要と思った。
- ・性同一性障害当事者のうち小学校入学以前に自身の性に対する違和を感じる子が一番多いということに驚いた。
- ・自殺懸念性が高いとあったが、その回避方法を知りたい。
- ・性的マイノリティを受容する考えを持つアライという存在を初めて知った。私も心掛けたい。
- ・入学以前に違和を感じるとのことで、保育園幼稚園との連携が必要だと思った。
- ・性的マイノリティの中に性自認や性的指向以外に問題を抱える人があることを初めて知った。
- ・啓発資料の内容すべてがこれから役に立つと思いました。
- ・客観的な数字で表されていて、とても分かりやすく、読みやすい資料なのにとっても役に立った。
- ・問題となる前に早め早めに保護者などとも協力したい。その際に活用できる機関などを知りたい。

・第6問 事前アンケート時と事後アンケート時で変わったこと（知識や意識など）（記述式）

- ・改めて自殺やいじめを経験する当事者が多いことを知り、重く受け止める必要性を感じた。
- ・アライという言葉を知った。教師もアライとして当事者児童に寄り添っていききたい。
- ・性の多様性に関する用語に関する理解が事前アンケートのときより理解することができた。
- ・このような啓発資料を広めていく大切さを改めて実感した。様々な場所で配布してください。
- ・性別以外にもマイノリティは多く存在し、全てに対応はできないと思った。妥協点なども伝えていく必要があると思った。

・第7問 啓発資料の必要性について（選択式）

各選択肢の回答人数	
とても役に立った	13
まあまあ役に立った	16
どちらとも言えない	2
あまり役に立たなかった	0
全く役に立たなかった	0

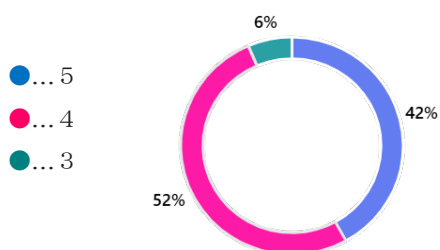


表8 事後アンケート第7問回答結果

図9 事後アンケート第7問回答人数の割合

3-3. 事前・事後アンケートの第1問から第4問（選択式問題）の結果の比較および分析

事前アンケート、事後アンケートそれぞれの各設問の回答結果の比較及び分析を以下に示す。また、両アンケートの第1問から第4問は同一内容のためまとめて示し、それぞれのアンケートで異なる設問については別に示す。同一内容の設問において事前と事後で選択肢の順序のみ入れ替えたものは、事後の選択肢番号に合わせて示す。

(1) 事前アンケート・事後アンケート共通（第1問から第4問）

・第1問 所属学年について（選択式）

事前では通常級全23学級全ての担任、事後では20学級の担任から回答が得られた。特別支援学級では事前では3人、事後では4人から回答が得られた。管理職などの学級担任以外の回答は事前では6人、事後では7人から回答が得られた。合計で事前では32人、事後では31人の教職員から回答が得られた。

・第2問 LGBTという言葉についての認知度（選択式）

選択肢2の回答人数が事前では2人に対し事後は0人になり、より上位の選択肢を選択した回答者がでた。選択肢5の回答人数は事前では12に対し事後は9人と最上位を選択した人数は減少したが、選択肢4.5の回答人数の割合は事前では68%に対し事後は87%と上昇した。

選択肢番号	事前	事後
5	12	9
4	10	18
3	7	4
2	3	0
1	0	0

表9 事前・事後第2問回答結果

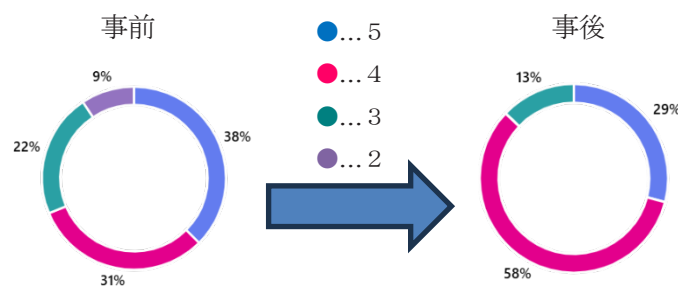


図1 再掲

図6 再掲

・第3問 インターセックスというセクシャリティについて（選択式）

正答率が事前では15%に対し事後は61%と大幅に上昇した。だが、事後において「性自認」という言葉を含む選択肢1（誤答）の選択率は34%となった。

選択肢番号	事前	事後
1	24	10
2	3	2
正答 3	5	19

表10 事前・事後第3問回答結果

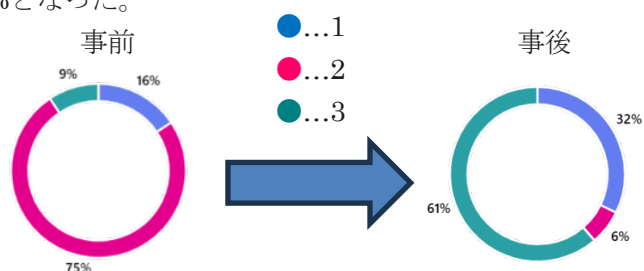


図2 再掲

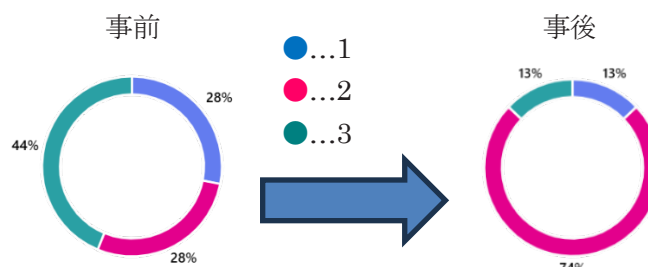
図7 再掲

・第4問 性同一性障害について（選択式）

正答率が事前では43%に対し事後は74%と大幅に上昇した。事後ではアンケート実施対象の約3/4の教職員が性同一性障害についての正しい選択肢を選択した。

選択肢番号	事前	事後
1	9	4
2	14	23
3	9	4

表 11 事前・事後第4問回答結果



4. 成果と課題

4-1. 研究の成果

事前アンケートより、研究校において「LGBT」という言葉は認知されており、各アルファベットの意味まで理解している教職員が多いという実態が分かった。同様に事前の第3問、4問の結果より性同一性障害やインターセックスなどのセクシャリティを知っている教職員は少ないという実態が分かった。また事前アンケートの記述回答より「当事者児童が不安に思うこと」「当事者児童は何をされたら嫌なのか」などといった回答が得られ、研究校において当事者児童の特性理解などに関する不安や疑問に対して、先行事例や具体的な対策の提案などを行っていくことが必要であることが分かった。

研究校の実態を踏まえた啓発資料を作成し配布したことで、事後アンケートにて「啓発資料の内容すべてがこれから役に立つと思った。」「とても分かりやすく、読みやすい資料なのでとても役に立った。」など啓発資料に対して肯定的な記述が複数得られ、研究校の教職員に対し、性の多様性や性的少数者に関する知識、理解の増進の一助となる啓発活動ができた。3-3 から、事前に比べ事後では、第2問はより上位の選択肢を選択した人が複数存在し、第3問、4問では正答率が上昇したことから、本啓発により研究校の教職員の性の多様性や性的少数者に関する知識の増進につながった。同様に記述問題より「当事者児童に寄り添っていきたい。」「正しい知識を身に付けたい。」といった回答が複数得られ、本啓発は研究校における教職員の意識向上につながった。

4-2. 研究の課題

事前アンケートにて「当事者がどのようなことで不安や嫌な気持ちになるのか」「知らずのうちに傷つけてしまっていないか」などといった不安を示す記述回答が複数得られたが、事後アンケートにて事前アンケート時との変化に関する記述において「不安がなくなった」「疑問が解決した」などといった不安・疑問などを解消したと捉えられる回答は得られず、配布した啓発資料では、研究校の教職員の不安を解消できなかった。配布資料に、事前アンケートにて得られた記述回答を実際に取り入れ焦点を当て、具体的な対応などを示すことによって、不安の解消につながるか次年度の研究で検証する予定である。

○. 参考・引用文献

- ・著書『はじめて学ぶLGBT』 著 石田仁
- ・いじめ防止対策推進法（文科省、2017）
- ・自殺総合大綱（文科省、2012）
- ・生徒指導提要（文科省、2022）
- ・性同一性障害特例法（国会、2003）
- ・自殺と性別、セクシャリティ（伊藤香苗、2003）
- ・性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施（文科省、2015）
- ・山梨県いじめの防止等のための基本的な方針（山梨県教育委員会、2018）
- ・山梨県学校教育指導指針（山梨県教育委員会、2024）
- ・山梨県教育振興基本計画（山梨県教育委員会、2024）
- ・いのちリスペクト、ホワイトトリボンキャンペーン、「LGBTの学校生活に関する実態」（2013）